

第六号

びっくり!エコ新聞

小学校のみんなは、かぞくといっしょにみてね



びっくり!エコ実行委員会

MAIL: info@eco100.jp

FAX: 075-254-8099

富岡町の帰還困難区域では、以前人が住んでいた地域に入るために通行証が必要なのに胸が痛みました。「夜

被災地の自然について考えました



調査当時の「夜の森」の様子

途中立ち寄ったいわき市にある四倉港では、高さ7mもある防潮堤工事が行われていました。また、津波によって荒れ地になった住宅地が高台に移転している風景などをまのあたりにし、被災地に来たことを実感しました。



2016年3月6日、エコーと京大のメンバー7名は、京都大学放射線同位元素総合センターの角山雄一助教らとともに、福島第一原子力発電所事故※1の影響で今も帰還困難区域※2のある福島県富岡町※3を訪ねました。



事故の翌年(2012年)に調査したときの写真(家屋)

大学生が見た! 福島は今

大杉美里さん
(京都大学農学部2年生)

福島のイメージが変わりました

正直、最初は「こわい」というイメージがありました。でも、事前に受けた角山先生の講義で、日常の生活でも放射線を浴びていることなどを学び、実際に京都市と郡山市の放射線を計測するとほとんど変わらないことも知りまし

山本和宏さん
(京都大学理学部4年生)

汚染土の山の前に立ちつくしました

京都から持って行った放射線計測器で計っていると、富岡町、特に帰宅困難区域に入ると放射線量が大きく増えました。水や泥がたまるところは特に多かったです。

山口優輔さん
(京都大学大学院生命科学研究科1年生)

被災地の現状を全身で学びました

線路近くまで流されてきたたがれきや、なぎ倒された標識がそのままに残されている、今も復興していないJR常磐線の線路を見たとき、津波の力のすさまじさとおそ

ろしさを肌で感じました。富岡町の帰宅困難区域では、道路の至るところにひび割れが入り、雑草が生い茂っていました。人が管理しないと町はここまで荒廃するのかとびっくりしました。

放射線に汚染されたものを焼いて、とりあえず体積を減らしているのだということを聞きました。次に連れて行っていた除染廃棄物置き場では、広大な面積に広がる、積み上げられた汚染土や廃棄物の山を前にして言葉を失い、絶望感すら感じたことをおぼえています。原発事故の影響はまだまだつづいているのだと、感じずにはいられませんでした。

た。そして、福島で普通の生活を送っている人たちを見ると、間違ったイメージをもっていた自分を反省しました。福島では、都市部は京都と同じように賑わっていました。が、原発に近づくにつれて人の姿が見えなくなりました。富岡町に入ってきた、モデルハウスのような新居にだれも住んでいない風景が、今も頭から離れません。



放射線量を測りながら歩く

収穫でした。自分の目と耳と、からだ全体で学ぶことができた、貴重な体験だったと思います。

JR郡山駅に着いたとき、建物の外に放射線量計測モニターが設置されているのことに気がつきましたが、それは福島ではあたり前の風景になっていました。また、駅舎がまろごと失われたJR富岡駅や線路、大きく曲がった案内板、

西堀功規さん
(京都大学工学部2年生)

力の限り応援したいと思っています

黄色信号がずっと点滅する荒れ果てた道路、移動するにつれて大きく変動する空間放射線量率、除染廃棄物の仮置き場など、京都での事前学習だけではわからない、大災害の本物の姿が実感できました。災害と原発事故という暗い過去と厳しい現実だけが多くの報道されていますが、今は空き家となった家々を見るにつけ、長い道のりではあっても、一日も早く元の生活に戻るよう、福島被災地を見守りつづけ、小さな力であってもできる限り応援していこうと強く思いました。

熊本支援速報

2016年4月14日に熊本県で震度7の地震が起こりました。地震で多くの家屋が全壊、半壊となり、家に住むことができない人が大勢いらっしゃいます。都道府県が災害救助法に基づいて災害で家に住めなくなった人のために、応急仮設住宅を建設します。大和リース株式会社は、その応急仮設住宅を建設する仕事をしています。

応急仮設住宅って、どんな住宅?

- 応急仮設住宅は、学校の運動場や広場などに建てられます。
- 工場で柱や壁パネルなどの部材を加工して、現場に持ってきて組立てるプレハブの住宅です。● ほぼ一カ月で完成します。

仮設住宅ができるまで

1. くい打ち
2. くい打ち完成
3. 土台と大引を敷く
4. 柱を立てる
5. 床パネル施工
6. 壁パネル施工
7. 屋根取付準備
8. 梁施工
9. 屋根取付
10. 世帯間壁施工
11. 室内壁施工
12. ユニットバス施工

完成した応急仮設住宅の室内

実は応急仮設住宅はとってもエコな建物!!

応急仮設住宅は国の基準で2年間住むことができます。いらなくなった応急仮設住宅は、解体して柱と壁貼パネルを工場に持ち帰り、繰り返し使います。つまり、リユースします。廃棄物を極力出さない、そして使える部材を繰り返し使用するエコな建物です。

子ども報道記者募集

びっくり!エコ探検隊

～母なる海の仲間たちを見よ!～

開催日: 2016年8月8日(月) 8:00~19:00

※交通事情により時間が前後することがありますので、余裕をもってご参加ください。

私たちの食卓を彩るお魚たちのことを知るために、今年は海へ繰り出します! 京都府舞鶴市に行き、京都大学舞鶴水産実験所と竜宮浜を訪ねます。水産資源の保全について学んだ後は、実際に海で生き物を観察してみましょう。

対象 小学校高学年～大学生
※浅瀬で溺れない程度の水泳の技能が必須。また、参加後は記事やレポート、ポスターなどの提出が前提となります。

人数 40名程度(先着順)

集合 時間▶8:00 場所▶京阪三条ロータリー ※貸切バスでの移動になります。

参加費 1人 2,000円 (集合から解散場所までの旅費、入場・体験料、昼食代金を含む)

応募締切 7月31日(日) 参加確定者には後日詳細をお送りします。

応募方法 【1】お名前 【2】学校 【3】学年 【4】住所 【5】電話番号 【6】FAX番号(ある場合) 【7】メールアドレス(できればPCの) 【8】参加を希望する理由を書いて、**往復ハガキ**で裏面宛先までお申込みください。

【協賛】(一社)セイヤーズフォーザシー日本支部(ブルーシーフードプロジェクト)、日本財団

※1:2011(平成23)年3月11日に起こった東日本大震災の影響で、東京電力福島第一原子力発電所で発生しました。

※2:福島県内に設けた避難指示区域の一つで、政府が立ち入りを原則禁止しています。

※3:富岡町は東日本大震災では震度6強を観測し、原発事故の影響によって、町内に帰宅困難区域・居住制限区域があります。